

千臨技サーベイにおける LD 報告値の現状

○雨宮将史(千葉県こども病院) 秦暢宏(東京歯科大学千葉病院) 八賀孝浩(佐倉中央病院) 淵上孝一(君津中央病院) 長谷健二(東千葉メディカルセンター) 三末高央(船橋市立医療センター)

【はじめに】毎年実施している千葉県臨床検査技師会精度管理調査臨床化学検査部門(以下、千臨技サーベイ)において、評価対象の検査項目は概ね収束していることが確認されている。特に、2012 年度以降の千臨技サーベイで汎用機における乳酸脱水素酵素(以下、LD)以外の酵素項目は、A 評価割合が 90%を下回ることにはなかった。そのような中で LD の A 評価割合は 85%程度であり、他の酵素項目より低かった。チリトロール測定値報告施設では、認証値を中心とする許容範囲に入っているのにもかかわらず、千臨技サーベイ試料では許容範囲を外れてしまった施設も散見された。このような現状は千臨技サーベイ試料に由来する結果ではないかと考え、調査を行った。

【検討内容】2012 年度、2013 年度、2014 年度の千臨技サーベイで使用した試料の LD の分画を測定したうえで、それぞれの年度における LD の報告値を、千臨技サーベイ参加施設の採用試薬メーカーや検量方法、自動分析装置ごとに集計し、比較検討した。

【結果】LD の A 評価から外れた施設数は 2012 年度 11 施設、2013 年度 26 施設、2014 年度 13 施設であった。外れた施設の採用試薬メーカーにおいては一定の傾向はないものの、最も A 評価割合が低かった 2013 年度の試料においては LD1/LD5 が試料 1 は 1.65、試料 2 は 1.13 と他の年度に比べ低かった。

【まとめ】千臨技サーベイ試料では、試料に含まれる LD の分画や分画比により、採用している試薬メーカーや使用している自動分析装置によっては、測定値の CV (変動係数) が大きくなる傾向が示唆された。各参加施設の報告値を評価するうえで、原因を追及することは重要であると考え。今後も継続して検討を続けていきたい。 連絡先 043-292-2111